

はじめに	1	5 有収率向上対策	18
I これまでのあゆみ	2	6 中小水力及び太陽光発電所の建設	18
1 上水道事業・工業用水道事業	2	7 財政状況	18
2 下水道事業	4	1 財政の概況	18
II 上水道事業	6	2 平成30年度決算(税込)	19
水道事業	6	水道用水供給事業	20
1 水道事業の現状と課題	6	1 用水供給事業の現況	20
1 水需要の動向	6	1 沿革・概要	20
2 課題と今後の対応	6	2 給水状況	20
3 重点施策及び実施事業	7	3 施設系統図	21
4 推進体制	7	4 料金について	21
2 水道事業の現況	8	5 主要施設	22
1 給水量	8	6 財政状況	23
2 普及状況	8	III 工業用水道事業	24
3 口径別給水状況	9	1 工業用水道事業の現況	24
4 水系別施設能力	10	1 給水状況	24
5 主要施設	12	2 主要施設	26
3 水質管理	15	3 財政状況	27
1 水源における水質管理	16	IV 下水道事業	28
2 浄水場における水質管理	16	1 下水道事業の現状と課題	28
3 給水栓における水質管理	16	1 下水道の役割	28
4 より安全で良質な水への取り組み	16	2 下水道事業の現況	29
4 震災対策	16	3 課題と今後の対応	32
1 水道施設の耐震化	16	2 下水道の計画	33
2 応急給水に係る諸対策	17	1 社会資本整備重点計画	33
3 北部福岡緊急連絡管事業	17	2 下水道整備事業	33
		3 下水道資源などの有効活用	35
		1 処理水の活用	35
		2 汚泥の活用	36
		3 未利用エネルギーの有効利用	37
		4 下水道施設の有効活用	37
		4 財政状況	38
		1 財政の概況	38
		2 財政のしくみ	38
		3 平成30年度決算(税込)	39
		V 海外事業	40
		1 国際技術協力	40
		2 海外水ビジネス	42
		VI お客さまサービス	46
		1 お客さまの窓口	46
		1 上下水道お客さまセンターの主な業務	46
		2 上下水道料金センターの主な業務	46
		2 下水道事業受益者負担金制度	47
		3 下水道使用料制度	47
		4 水洗化の普及対策	47
		5 工事事務所の主な業務	48
		1 上水道業務	48
		2 下水道業務	48
		6 広報活動	49
		VII 上下水道局の組織	51
		1 組織機構図	51
		2 職員数	52
		3 事務分掌(令和元年9月1日現在)	52
		4 事業所一覧	54
		参考資料	55-90

Contents

〈表紙の写真〉
 <右上>
 平成31年3月に追加配備した給水車
 (日本水道協会九州地方支部合同防災訓練時の様子)
 <右下>
 雨水貯留管の整備
 (桜町北湊雨水貯留管 令和元年6月供用開始)
 <左>
 日本・カンボジア水道フォーラム
 ~北九州市・カンボジア水道技術交流20周年~
 (カンボジア工業手工芸省上級大臣 記念講演の様子)

はじめに

本市の水需要は、少子高齢化の進展、節水意識の高まりや、大口需要者の地下水への転換等を背景に減少傾向が続いています。また、水の安全性やおいしさに対する関心の高まり、施設の老朽化や頻発する自然災害への対応など、上下水道事業を取り巻く環境は大きく変化し、経営課題も多様化・高度化しています。

本市では、これらの課題に対応するため、平成28年4月に策定した「北九州市上下水道事業中期経営計画」(平成28～令和2年度)に沿って、経営目標である「安全・安心で質の高いサービスを提供し、現行料金を維持する」に向けて着実に事業を進めています。

水道事業では、重点的に取り組む課題として、老朽管更新事業や震災対策事業を掲げています。これにより、水道施設の老朽化や自然災害による漏水事故を防ぎ、安全で安定的な水の供給に取り組んでいます。また、広域連携の必要性について理解を深めるための水道広域セミナーを開催するなど、新たな広域連携の推進に取り組んでいます。このような中、水道事業が抱える全国的な課題に対応するため、令和元年10月に改正水道法が施行されました。これらも踏まえ、引き続き「水道の基盤強化」に取り組んでいきます。

下水道事業では、安全で安心な災害に強いまちづくりとしての豪雨対策や震災対策、環境未来都市の推進に寄与する下水道施設の低炭素化、豊かで快適な市民生活の維持・拡充に向けた施設の改築更新、合流式下水道の改善や近隣市町との広域化の検討などに取り組んでいます。

海外事業では、ベトナムにおいて当局が開発したU-BCF(上向流式生物接触ろ過設備)の普及実証事業、カンボジアにおいて水道拡張整備事業などに取り組んでいます。また、国内においても、日明浄化センター管理棟(ビジターセンター)やウォータープラザなどの国際戦略拠点を活用しながら、技術研修や視察などを受け入れ、効果的な国際技術協力事業や海外水ビジネスを推進しています。

平成27年に国連において、世界共通の17のゴールを定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。本市は、平成30年に、OECD(経済協力開発機構)から「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」にアジア地域で初めて選定され、また、国から「SDGs未来都市」に選定され、現在、「SDGs」の達成に向け全市を挙げて取組を進めています。

この「SDGs」のゴールの6番目に「安全な水とトイレを世界中に」という目標が掲げられています。かつて本市が乗り越えてきた課題と同様の課題を抱える国や地域に対し、本市がこれまでに培った技術力やノウハウを生かした協力・支援を行うとともに、これらを通じて、本市にとっても、自らの強みの強化、職員の技術の継承や人材育成につながると考えます。今後も、積極的に各種事業に取り組み、お客さまに信頼される上下水道を目指してまいります。

ここに令和元年度版北九州市上下水道局事業概要を作成し、現状とこれまでの推移をまとめました。本市の上下水道事業をお知りいただくうえでの資料としてご活用いただければ幸いです。